

建設ダムにおける戦略的広報

水谷 大龍¹・松尾 嘉和²

¹近畿地方整備局 足羽川ダム工事事務所 用地課 (〒918-8239福井県福井市成和1丁目2111)

²近畿地方整備局 足羽川ダム工事事務所 調査設計課 (〒918-8239福井県福井市成和1丁目2111) .

足羽川ダム建設事業は、現在、本体のコンクリート打設が最盛期を迎えており、一般者向けの現場見学会など、様々な広報に取り組んでいるところである。また、令和6年7月には福井豪雨から20年の節目を迎え、地域住民の防災意識を再構築する絶好の機会でもあった。

このような背景のもと、足羽川ダム工事事務所では、夜間の現場見学をはじめとした新たなイベントの企画や情報発信ツールの拡充を行い、一般住民などに対して、今しか見ることでできない建設中のダムを通して、ダムの必要性や効果などの理解を深めていただいた。本論文は、上記の取り組みについて報告するものである。

キーワード インフラツーリズム、地域活性化、アカウンタビリティ

1. 足羽川ダム建設事業について

足羽川ダムは、九頭竜川水系足羽川の支川部小川（福井県今立郡池田町小畑地先）に建設する高さ96m、総貯水容量28,700千 m^3 、有効貯水容量（洪水調節容量）28,200千 m^3 の重力式コンクリートダムである（図-1）。下流地域の洪水被害軽減を目的としており、平常時は水を貯留しない洪水調節専用の流水型ダムである。

足羽川ダム建設事業は、現在、河川整備計画期間内に整備するダム本体及び水海川分水施設（分水堰・導水トンネル）の建設を進めている。将来計画として、足羽川、割谷川及び赤谷川から洪水を導水する計画である（図-2）。

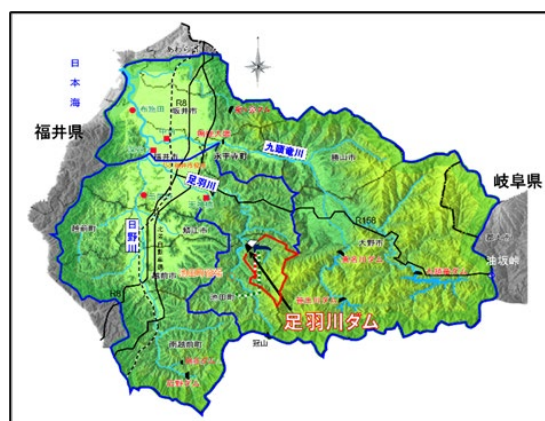


図-1 足羽川ダム位置図

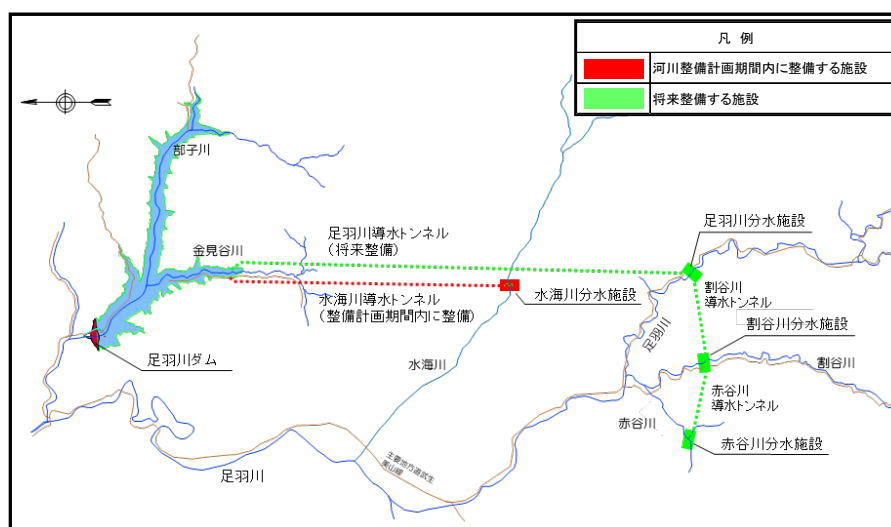


図-2 足羽川ダム計画平面図

国内で完成した流水型ダムは、辰巳ダム（石川県）、益田川ダム（島根県）などがあるが、いずれも堤高50m程度であり、足羽川ダムが完成すれば国内最大級の流水型ダムとなる（図-3）。

2025年7月時点の事業進捗状況としては、ダム本体は堤体コンクリートが約75%まで打設（写真-1）しており、導水トンネルは約99%まで掘削が進んでいる。



図-3 足羽川ダム完成イメージ



写真-1 堤体打設状況（2025年7月）

2. ダムを活用したインフラツーリズムと広報施策

近年、ダムや港、歴史的な施設をはじめとしたインフラ施設を観光するインフラツーリズムが注目され始めている。インフラツーリズムの魅力は、巨大な構造物のダイナミックな景観を楽しめる点や、普段は入れないインフラ施設の内部や今しか見られない工事風景など非日常の体験を味わうことができる点であり、特にダムはインフラツーリズムにおける代表的かつ魅力的な施設となっている。

足羽川ダムは2022年より堤体コンクリートの打設を開始しており、現在、工事の最盛期を迎えている。また、2024年は、足羽川ダム建設事業の加速の契機となった福井豪雨から20年という節目の年であり、新聞やテレビなど各メディアで特集が組まれるなど多くの報道がなされた。当事務所においても、前述の報道に合わせて防災意識の再認識や事業の必要性・効果などを理解していただくため、夜間の現場見学会を実施するなど、積極的な広報活動を実施した。以下では2024年より開始した新たな取り組み事例

や取り組みにおける工夫点などについて紹介する。

(1) 足羽川ダム夜間現場見学会

当事務所では、従前より実施している昼間の現場見学会に加え、2024年からは「ナイトツアー」と銘打った夜間の現場見学会を新たに実施した。ダムの工事は昼夜間問わず進めており、昼と夜で工事現場の雰囲気が異なるが、夜間は、一般の方にとっては見る機会がない現場となっていた。ナイトツアーは、ライトアップされた幻想的な工事現場を楽しんでいただきながら、治水の重要性に加え、ダムの施工技術を知っていただくものである。

ナイトツアーは、工事の受注者であるダム本体JVと連携して開催し2024年度は計3回実施した。当事務所からは事業の必要性や効果を、ダム本体JVからは施工方法やDXを活用した施工技術を、各々の役割に応じて説明し、ライトアップされた工事現場を見ていただいた（写真-2）。現場の説明は、若手職員を中心に技官・事務官の区別なく実施し、事務官の事業理解の深化、若手職員のプレゼン能力向上も兼ねて行った（写真-3）。



写真-2 ダムライトアップされた工事現場の見学



写真-3 若手事務官による事業説明の様子

見学会の参加者からは、「雨が降るたびに災害が多いので、ダムが防災につながればうれしい」、「めったに見学できないスケールの大きな現場に感動した」といった感想をいただき、治水事業の重要性及びダムの役割を理解していただくことができた。

また、開催に際し、ナイトツアーを広く周知するためマスメディアを活用した。通常の記者発表だけでなく、地元新聞紙において、ナイトツアー開催に合わせ、事業紹介、募集案内、開催結果の計3回にわたり記事を掲載していただいた。また地元の放送局に対して取材依頼をした結果、複数局から取材があり、テレビにてナイトツアーの様子が放映された。その効果として、2回目のナイトツアーは定員の10倍にものぼる応募があった。

2025年度においては、インフラツーリズムの展開として、地元観光会社とタイアップし、民間企業の観光ツアーとして5月にナイトツアーを実施した(写真4)。2024年度に実施した内容に加え、ダム本体建設工事の進捗状況に応じた見せ方を工夫として、ダム内部の監査廊の見学を新たに取り入れた(写真-5)。有料であったが、参加者から高い満足度を得ており、今後も定期的の実施していく予定である。



写真4 観光会社運営によるナイトツアー



写真-5 イルミネーションした監査廊の見学

(2) 展望台の終日開放

足羽川ダムの建設現場には、一般の方がダム本体を上流側から望める展望台が設置されている。2023年までは、安全管理の面から平日9時から16時に限定して開放していた。工事最盛期を迎えるなか、より多くの方に工事現場を見ていただくため、2024年度7月より休日も含む終日の解放を実施し、いつでも誰でも工事の様子を見ることができるようにした。

終日解放にあたって、安全に利用いただくため、必要な安全対策について法律相談を行った。結果として、事故等を防ぐために照明を設置すべきという指摘があったため、入り口部分等への照明設置及び案内看板への注意喚起の追記など、必要な対策を実施した(写真-6)。また、近傍にある道路橋の橋脚壁面に、スポットライトサインを投光し、SNS等の発信を促進する工夫を行った。その結果、終日解放前後で、来訪者数は前年度の同時期と比較し、2倍以上に上った(図4)。



写真-6 現在の展望台の様子

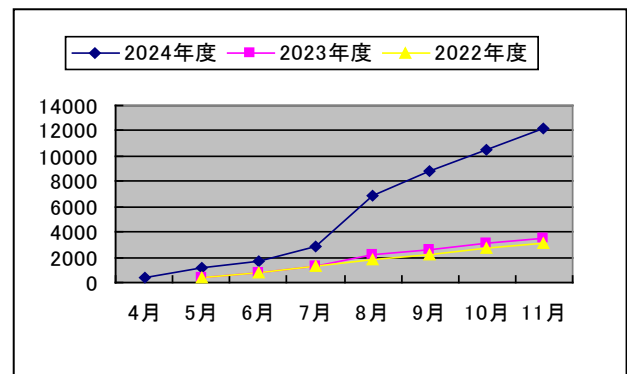


図4 展望台来場者数

(3) 既存広報施策の拡充

当事務所においては、これまで各種の広報施策を実施してきたが、2024年度には、さらなる拡充を実施した。以下でその内容を紹介する。

a) ダムギャラリーあすわの展示拡充

足羽川ダム建設現場には、広報施設として「ダムギャラリーあすわ」が設置されている。そこでの新たな展示物として、工事において使用される重ダンプのタイヤを設置した（写真-7）。重ダンプは建設現場内での土砂運搬に特化した通常ダンプの4倍の積載が可能なダンプであり、一般においては目にする機会が乏しい重機である。このような実物を展示することで、一般の方に工事現場ひいてはダム事業を身近に感じてもらうための取り組みとして実施した。

また、2025年にはゴールデンウィークの期間限定企画として、ダム内部に設置するプレキャスト監査廊の展示を行った（写真-8）。こちらは短期間ではあったが、県外からも訪問者があるなど好評であった。



写真-7 重ダンプタイヤの展示状況



写真-8 プレキャスト監査廊の展示・見学状況

b) YouTubeへの動画配信

当事務所では、YouTubeを活用した広報活動を行っている。2024年度においては、前述のナイトツアーの様子を紹介する動画、及びダム現場でしか見ることのできないコンクリートの製造方法などの施工技術の紹介動画を配信し、ダム施工現場におけるDXの取り組みについても情報発信した。

c) HPの拡充

当事務所のHPにおいて「足羽川ダムバーチャル見学会」のコンテンツを追加した。これにより、現場に赴かなくとも工事現場の複数箇所を360° 見学することが可能となった。また、3Dモデルによるコンクリートの打設状況、ライブカメラ画像を配信し、HPを見れば誰でも、リアルタイムでダム本体のコンクリート打設状況を見ることが可能となった。

3. 今後の展望

2024年度は、より多くの方に足羽川ダム建設事業を知っていただくために、前述した新たな取り組みを実施してきた。今後も引き続き、現場の進捗に応じ、様々な広報施策を展開していく予定である。本稿で紹介したナイトツアーは、今後も民間企業と連携をとりながら、周辺のインフラ施設を含めたツアーの多様化も図っていく予定である。

また、インフラツーリズムを主軸とした池田町の地域活性化を目的として、池田町、福井県、民間事業者などと連携しながら魅力ある施策を検討している。主な施策としては、導水トンネルのイベント活用やダム堤体壁面へのボルタリング設備の設置といった足羽川ダムの特徴を活かせる施策を検討しているところである。また、建設段階だけでなく、足羽川ダム完成後も見据えた地域活性化の取り組みを検討していく予定である。

4. おわりに

当事務所において、インフラツーリズムの展開は過去から継続的に実施してきたが、2024年度からは新たな取り組みを複数実施し、ナイトツアー参加者の満足度や展望台来場者数の増加など十分な効果が発揮された。また、ナイトツアー開催にあたり、その周知において、マスメディアを活用することの効果が確認できた。今後の広報活動においてもマスメディアを活用し、足羽川ダムの魅力を広く発信していく予定である。

また、広報活動は事務所全体で取り組むものとし、技官・事務官の区別なく実施し、事務官の事業理解の深化、若手職員のプレゼン能力向上などに繋げることができた。

計画から完成まで長期に及ぶダム事業において、コンクリート打設はわずか数年で完了する。今しか見ることのできない貴重なタイミングであることを強調し、今後もさらなるインフラツーリズムの展開及び情報の発信に取り組んで行く。